

高温に対する農作物等管理技術対策

令和8年4月27日
埼玉県農林部

4月21日気象庁発表の「向こう3か月の天候の見通し」によると、本年5月～7月の気温は暖かい空気に覆われやすいため高くなると見込まれます。今後の気象情報に留意し、農作物生育ステージに合わせた適切な管理に努めましょう。

水稲

- 1 播種やほ場準備等の作業計画を見直して適期作業に努める。
- 2 浸種場所は直射日光の当たらない日陰とし、水をこまめに交換して水温上昇による芽の伸び過ぎに注意する。
- 3 播種予定日よりも芽の伸長が早い場合は、はと胸状になった籾を脱水し、乾燥しないようビニルで被覆して、15℃程度の米の冷蔵庫等で一時保管する。
- 4 育苗時は、換気や被覆資材で温度を調節する。特に育苗初期は床土の温度が30℃を越えないようにする。
- 5 苗の老化は移植後の初期生育が遅延し、高温時には除草剤の薬害発生を助長するので健苗の育成に努める。
- 6 ノビエの出葉速度は高温により早まるので、除草剤の処理時期が適用葉齢を超過しないよう早めに処理を行う。

麦類

- 1 赤かび病の適期防除に努める。散布した薬剤の収穫前日数に注意して収穫する。

園芸作物共通

- 1 大型ハウスは、遮光カーテンの利用や可能であれば外部遮光・遮熱資材の展張、遮熱資材の塗布を行い、日射による温度上昇を抑制する。また、換気扇の利用、側面・妻等の開口部の開放等により、施設内の通風改善を図る。細霧冷房も併用できれば望ましい。
- 2 雨除けハウス等簡易施設は、寒冷紗や不織布で遮光し、葉焼け等の高温障害を防ぐ。
- 3 露地栽培では、品目や生育状態等を考慮し、適時かん水を行う。
- 4 ハダニ類・アザミウマ類等、高温条件下で発生しやすい病害虫の早期発見に努め、的確な防除を行う。

果樹

- 1 ハダニ類やシンクイムシ類を始めとする主要害虫の初期発生に注意し、発生を確認した場合は防除暦を参考に速やかに防除を行う。
- 2 草生栽培は高温や乾燥の対策として有効であるが、下草は定期的刈取りを行うなど、適正に管理する必要がある。下草の刈り高は、地上8cmとすることで、ハダニ類の土着天敵を高密度に維持できる。

清耕栽培園の場合は、樹冠下にわら等を敷き、地温上昇と地表面からの蒸散を防ぐ。

花植木(切り花)

- 1 朝・夕の気温の低い時間帯に採花し、常温で長時間放置しない。
- 2 エチレンによる劣化を防ぐため、前処理剤を使用し品質の維持に努める。

茶

- 1 一番茶の摘採を予定している茶園では、茶芽が高温により早く硬化するおそれがあるため、早めの摘採を心がける。
- 2 やむを得ず摘採が遅れる場合は、被覆資材で遮光を行うことで、茶芽の硬化をある程度抑制できる。
- 3 摘採した生葉は高温を避け、速やかに茶工場へ運搬する。搬入後は生葉コンテナ等に移し、通気を確保・確認したうえで適切に保管し、できる限り早く製造に着手する。

畜産

- 1 畜舎は屋根・壁面に遮光・遮熱資材を展張するとともに、屋根散水や換気扇を利用し、施設内の温度上昇の抑制及び通風改善を図る。
- 2 畜体への送風や散水・散霧により、家畜の体感温度低下に努める。
- 3 高温により牧草類の生育が早まる可能性があるため、刈遅れがないように収穫の準備を早めに進める。

※日中等高温時の農作業は避け、作業中はこまかな水分補給と休憩を心がけましょう。

※御不明な点は、最寄りの農林振興センター農業支援部までお問合せください。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- ・ 農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyouannzen/nettyuusyuu.html>